

20221016 指導・支援方法論レポート

あおぞらクラブ指導員 笥 由衣

「指導・支援方法論」ってどんなことをするんだろうと、あまり聞きなじみのない講座のタイトルに少し不安でしたが、豊橋市で指導員をしている方の実践をもとに実践研究をしていくスタイルの講座でした。

実践記録の内容は、発達性協調運動障がいを抱えながらも、いろんなことに興味関心を示し、めげずに挑戦することのできる2年生の女の子のお話でした。

研究内容としてスポットを当てたのは『鬼ごっこ』でした。

みんなと遊ぶことが大好きで、鬼ごっこをするけれど鬼になると怒って泣いてしまう、でも逃げるときは楽しそうに走っている、そんな状況の中どのように声掛けをして、どのように遊びに入れていくか、遊びを継続させていくか…、そんなことをグループワークで話し合いました。

日々の生活の中で公園へ出かけることが出来ない現場にいる私にとって、公園で起る出来事に対して“時間がなくなってしまうよ”というのが自分の引き出しの中に1つあります。でもその言葉を使わなくても、子どもたち自身にも楽しく遊んで帰りたいという思いがあるように感じる事が多いので、公園でのトラブルは少ないように感じています。

ただ、鬼ごっこをするときに鬼になってしまうと走るのが苦手な子はいやいやと共感できるし、逃げる子は自分が追いかけてもらえなかったり、鬼ごっこだからこそ感じられるスピード感がなければおもしろくないと子どもに言われたことがあること、そんな時どちらの問題も何とかかなりそうかなという理由から1分くらいで交代することを提案してみたことがあることをグループワークではお話しさせてもらいました。

最後に、一番気になったのは“周りにいる子たちの反応”です。実践者の方の話では、女の子はほとんど責められることはなく、友達や上の学年の子たちにあたたかくしてもらっていたとのこと。現場にいる指導員さんの子どもたちへの声掛けの内容や、あたたかく優しい雰囲気のある空間にする工夫など、もっともってお話を聞かせてもらいたかったなと思いました。